事業終了報告　概要表*（1頁以内）*

|  |  |
| --- | --- |
| プログラム名 |  |
| 事業名 |  |
| 開始日 | 年　月　日 | 終了日 | 年　月　日 | 日数 | 日間 |
| 団体名 |  | 担当者名 |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| JPF助成総額 | 円 |  |
| 支出額 | 円 | ％ |
| 直接事業費 | 円 | ％ |
| 間接事業費 | 円 | ％ |
| 返還金額 | 円 | ％ |

|  |  |
| --- | --- |
| 事業目的 |  |
| 事業の成果（概要） |  |
| 事業の成果 | 裨益者（誰が、何人） |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

事業終了報告書

1. 事業目的*（事業全体として目指した成果。事業計画書に基づく）*
2. 事業の成果（概要）*（事業地名も明記のこと）*
3. 事業計画変更の記録*（事業期間の延長は報告も、それ以外は変更申請のみ簡潔に記載のこと）*

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 承認日 | 変更区分 | 変更内容の概要 |
|  |  |  |
|  |  |  |

1. 事業の成果（個別）
	1. コンポーネント1：*（事業に合わせて見出しを書き変え）*
2. 成果*（概要表・ログフレームの内容を基本とする）*
3. 配布物、設置物、研修等の詳細

|  |  |
| --- | --- |
| 計画*（数値等、事業計画書に基づく）* | 実施が計画と異なる点があれば記載 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

1. 上手くいった点（計画どおりに実施された点も含む）及びその理由*（他事業への教訓を意識して記載）*
2. 上手くいかなかった点（実施計画の下方修正を含む）及びその理由*（他事業への教訓を意識して記載）*

* 1. コンポーネント2：*（事業に合わせて見出しを書き変え）*
1. 成果*（概要表・ログフレームの内容を基本とする）*
2. 配布物、設置物、研修等の詳細

|  |  |
| --- | --- |
| 計画*（数値等、事業計画書に基づく）* | 実施が計画と異なる点があれば記載 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

1. 上手くいった点（計画どおりに実施された点も含む）及びその理由*（他事業への教訓を意識して記載）*

1. 上手くいかなかった点（実施計画の下方修正を含む）及びその理由*（他事業への教訓を意識して記載）*

* 1. コンポーネント3：*（事業に合わせて見出しを書き変え）*
1. 成果*（概要表・ログフレームの内容を基本とする）*

1. 配布物、設置物、研修等の詳細

|  |  |
| --- | --- |
| 計画*（数値等、事業計画書に基づく）* | 実施が計画と異なる点があれば記載 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

1. 上手くいった点（計画どおりに実施された点も含む）及びその理由*（他事業への教訓を意識して記載）*

1. 上手くいかなかった点（実施計画の下方修正を含む）及びその理由*（他事業への教訓を意識して記載）*
2. 事業の自己評価とその根拠
	1. 事業計画・実施の妥当性・適切性（Relevance/Appropriateness）
* 地域のどのようなニーズと優先順位を把握し、どのようにそれに対応できたか。
* 地域の主体性をどの程度重視し、それに応じて信頼性を満たした事業実施ができていたか。
* 地元の連携団体の選択や協力の仕方は適切であったかどうか。
	1. 事業の連結性または持続可能性（Connectedness or Sustainability）
* 中長期の活動への連結性がどのように確保されたか、中長期に想定される課題をどのように念頭に置いて活動したか。
	1. 事業実施における効率性（Efficiency）
* インプット（資金、技術、知識、時間等）に対していかに適切なアウトプット（事業の効果や裨益者の便益）が得られたか。
* 他のアプローチと比較した場合、最も効果的なプロセスが採用されていたかどうか。
* 事業地の人材、技術等のリソースを十分に活用できたかどうか。
	1. 事業実施における有効性（Effectiveness/Timeliness）
* 事業目標はどの程度達成されたか（事業全体について）。目標達成を促進した要素、障害となった要素は何であったのか。
* タイミングのよい事業であったどうか。
* 十分に迅速な支援が実施できたか。今後さらに改善の余地はあるとしたらどのようなことか。
	1. 事業実施に際しての調整（Coordination）
* 他の支援団体、中間支援団体とどのように連携・調整をした上で事業を実施したか。
* 被災県や市町とどのように連携・調整を行なって事業を実施したか。

（６） スフィア・スタンダードへの適合性（Observance of Sphere Standard ）

* 人道憲章に記された基本的な人道原則について、特にどのような点に配慮して事業を行なったか。
* 支援セクター毎に定められた最低基準を順守することができたか。できなかった場合はどのような問題があったか。
* 裨益者が意見を述べる権利、弱者・少数者への配慮等、裨益者の権利保護（プロテクション）について、十分な配慮を行なったか。
1. 事業管理体制*（上手くいった点、いかなかった点を、理由を含め記載）*

（１）人員配置

（２）資金管理

1. 想定していたリスクへの対応*（事業計画書のログフレームに記載したリスクに対応した場合のみ記入）*
2. 安全管理体制
3. 広報実績
4. その他の報告事項

以上

事業の成果*（原則1頁以内）*

|  |  |
| --- | --- |
| 事業全体としての成果 | *（P.1の事業の成果をもとに、簡潔に記載する）* |
| 事業開始前の状況 | 事業開始時に目指した成果*（事業計画書ログフレームと同様に記載）* | 成果を測る指標と確認方法*（事業計画書ログフレームと同様に記載）* | 事業実施後の実績*（事業開始時に立てた目標値に対する実績。可能な限り具体的数値で示す）* | 実施された活動 | * 正の外部要因
	+ - 負の外部要因
 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |